

大井九条の会 平和の集い 発足11周年記念学習会

「戦後 80 年と不戦の決意」

～日本とアジアを再び戦場にしないために～

今、世界の各国で軍事力の強化が進み、日本でも、日本の各地の基地強化、南西諸島での新基地建設、大量の兵器購入、ミサイル開発、新戦闘機開発などが進んでいます。これらは本当に日本の平和のために必要なことでしょうか。

緻密な調査の上で発信を続けるフリージャーナリスト布施祐仁さんが今年の日本母親大会で行った9月29日の講演をみなさんで視聴し、学習して、武力強化のみにたよらない平和の実現への道筋の確信を共有したいと考えております。多くのみなさんのご参加をお待ちしております。



布施祐仁（ふせ・ゆうじん）

1976年生まれ。ジャーナリスト。専門は外交・安全保障。『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たか』で石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。近著に『従属の代償 日米軍事一体化の真実』がある。

日時:2025年12月6日(土)14:00～16:00

I 部 布施祐仁講演「戦後80年と不戦の決意」(DVD)視聴 70 分

II 部 参加のみなさんのご感想、ご意見をお願いします

場所:大井町生涯学習センター3階 視聴覚室

参加費 300 円（高校生以下無料）

主催 大井九条の会

連絡先 0465-83-5875 田村(代表) 0465-83-2358 二上(事務局)

従属の代償 日米軍事一体化の真実 布施祐仁



布施祐仁（ふせ・ゆうじん）

1976年生まれ。フリージャーナリスト。平和と戦争の問題を中心に20年以上、取材・執筆を続ける。近著に『従属の代償 日米軍事一体化の真実』（講談社現代新書、2024年9月）。『ルポ イチエフ——福島第一原発レベル7の現場』（岩波書店）でJCJ賞、『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たのか』（三浦英之氏との共著、集英社）で石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。その他、『日米同盟・最後のリスク：なぜ米軍のミサイルが日本に配備されるのか』（創元社）、『経済的徴兵制』（集英社）、『日米密約 裁かれない米兵犯罪』（岩波書店）、『日本は本当に戦争に備えるのですか？』（共著、大月書店）など著書多数。

布施祐仁さんの発言

米中対立を克服するための自主独立の外交が今ほど求められている時はない

「近い将来、日本が戦争に巻き込まれてしまうのではないかと不安を抱く方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私自身、安全保障を専門とするジャーナリストとして20年以上活動してきた中で、今ほど戦争の危機を感じる時はありません。（中略）

米国と中国に挟まった日本の平和を守るためには、米中間の緊張増大をできるだけ避けるようにする以外、生きる道はありません。対米協調は必要ですが、対米一辺倒は危険です。米中間の緊張を緩和し、対立を克服するための自主外交が今ほど求められている時はありません。

（『従属の代償 日米軍事一体化の真実』2024年、講談社現代新書より）

台湾有事、日本が戦場となる重要な選択をどこで誰が決めたのか

南西諸島での軍備強化について、日本政府は「南西諸島の防衛のため」「中国に対する抑止力を強化するため」と説明してきましたが、いきなり中国が南西諸島を攻撃してくるわけじゃない。「台湾有事が起きた時にアメリカが台湾を防衛するために軍事介入する。そして自衛隊も一緒になって動く。その時に攻撃の拠点として南西諸島の島々を使う。その結果として相手の攻撃も受ける」ということです。つまり、台湾を防衛するために南西諸島が攻撃されるのはやむを得ないと考えているのです。しかし、南西諸島が攻撃されるリスクを引き受けてでもアメリカと一緒に中国と戦って台湾を防衛するなんてことを、そもそもどこで誰が決めたのか？

国会議事録を調べてみましたが、こういうことについて議論すらまったくしていません。南西諸島をはじめ日本が戦場になるかもしれない重大な選択なのに、国民に対する説明も国会での議論もきちんとされないまま進んでいることに、強い違和感があります。（〈沖縄戦から80年〉集英社オンラインより）

